

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2019年10月10日公表ほか USDA Crop Production

8月の農業気象概況（2019年9月12日公表）

8月は五大湖地域及び大平原地域では、気温が平年並みを2.2℃以上下回った。しかし、南西部の一部の地域では、8月の平均気温が平年並みを3.3℃以上上回った。デルタ地帯、フロリダ州及び南部の平原地域では、8月中の降水量が254mm以上となった地域があった。しかし、カリフォルニア州、ミシガン州、太平洋沿岸地域、ロッキー山地及び南西部では、乾燥状態が続いた。

9月の農業気象概況（2019年10月10日公表）

9月の平均気温は、コロラド州、イリノイ州、インディアナ州、ミシシッピ渓谷地域、ニューメキシコ州、ノースカロライナ州、オハイオ州、南部平原地域、バージニア州、ウェストバージニア州で平年並みを上回り、9月の平均気温が平年並みを3.3℃上回った地域があった。しかし、アリゾナ州、カリフォルニア州、アイダホ州、モンタナ州、ネバダ州、ニューイングラン

ド州、及び太平洋沿岸北東部の地域では、気温が平年並みを下回った。9月中を通して米国全体で極度の乾燥状態が続いたが、カリフォルニア州の海岸沿い、イリノイ州北部、ノースダコタ州西部、テキサス州南東部、及びウィスコンシン州南部では例外的に降水量が得られた。

乾燥インゲンマメ

2019年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、107万9,568tの見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて3%の減少、2018年度の生産量に比べて37%の減少である。作付面積は、53万157haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて2%の減少、2018年度の生産量に比べて37%の減少である。収穫面積は、50万9,922haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測に比べて2%の減少、2018年度の収穫面積に比べて37%の減少である。作付面積及び収穫面積の予測の更新は一部の州で行われており、入手可能な全てのデータを見直して作成されている。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、2,116kg/haの見込みであり、この値は8月

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し（2018年及び2019年）

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
オーストリアンウィンターピー3/	6,640	(未詳)	4,410	(未詳)	1.28	(未詳)	5,620	(未詳)
ヒヨコマメ4/	347,870	180,170	341,070	176,850	1.69	1.84	577,970	325,410
乾燥食用インゲンマメ4/	842,160	529,130	815,860	510,110	2.08	2.12	1,700,700	1,080,090
乾燥食用エンドウ3/	346,620	443,940	326,950	423,310	2.21	2.39	722,530	1,011,010
レンズマメ	315,660	194,660	290,570	185,750	1.31	1.60	381,380	297,240
リンクルドシードピー3/	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	(未詳)	17,640	(未詳)

(未詳) データが入手できていない。

3/2019年度以降、オーストリアンウィンターピー及びリンクルドシードピーは乾燥食用インゲンマメに含めることとする。

4/2019年度以降、ヒヨコマメは乾燥食用インゲンマメに含めないこととする。

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2019年10月10日付けで公表。

メートル法の単位による米国の2018作物年度及び2019作物年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定は、2019作物年度全期間のものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

表2 米国の乾燥インゲンマメの収穫面積、単収及び生産量（2018年及び2019年）

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha) 1/		生産量 (t) 1/	
	2018	2019 1/	2018	2019	2018	2019
カリフォルニア	19,304	10,319	2.8	2.5	54,023	25,446
コロラド	12,748	14,163	2.4	2.2	30,300	30,481
アイダホ	74,057	23,269	1.9	2.4	141,838	54,794
ミシガン	78,104	75,676	2.7	2.4	210,240	178,126
ミネソタ	67,987	81,342	2.6	2.4	179,804	196,043
モンタナ 2/	156,209	(未詳)	1.5	(未詳)	236,503	(未詳)
ネブラスカ	53,014	44,515	2.8	2.3	147,372	100,788
ノースダコタ	248,882	242,811	2.0	1.9	490,152	451,778
テキサス 2/	6,475	(未詳)	1.2	(未詳)	7,983	(未詳)
ワシントン	87,817	10,117	2.0	2.4	174,950	23,813
ワイオミング	11,250	7,891	2.4	2.4	27,533	18,824
米国全体	815,846	510,106	2.1	2.1	1,700,699	1,080,094

(未詳) データが入手できていない。

1/予測。

2/2019年には推定が行われていない。

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、農業統計局(NASS)から、2019年10月10日付けで公表。

表3 米国の乾燥インゲンマメ等の州別及び銘柄別作付面積の推移
(2018及び2019年8月1日現在の推定値) (単位: ha)

銘柄	州名	2018	2019	銘柄	州名	2018	2019
ラーズライマ	カリフォルニア	4,128	2,954	クラベリー	カリフォルニア	243	121
ベビーライマ	カリフォルニア	4,046	2,873		アイダホ	486	647
ネイビー	アイダホ	486	526		ミシガン	1,578	1,214
	ミシガン	24,281	24,281		ノースダコタ	1,133	971
	ミネソタ	15,378	15,580	米国全体	5,827	4,330	
	ノースダコタ	32,780	30,756	アイダホ	1,416	2,307	
	ワシントン	567	283	ミシガン	40,469	46,539	
グレートノーザン	米国全体	73,896	71,710	ミネソタ	16,592	21,691	
	アイダホ	769	1,619	ネブラスカ	1,416	1,052	
	ネブラスカ	16,592	18,009	ノースダコタ	37,636	54,228	
スモールホワイト	米国全体	20,598	23,957	ワシントン	1,578	2,023	
	ワシントン	486	364	米国全体	100,362	129,257	
	その他の州 2/	2,388	1,821	カリフォルニア	2,711	2,509	
ピントー	米国全体	2,873	2,185	ブラックアイ	テキサス 1/	6,475	(未詳)
	コロラド	10,926	10,724	米国全体	13,233	5,625	
	アイダホ	8,903	6,151	小粒ヒヨコマメ 3/ 4/	アイダホ	25,090	12,141
	ミネソタ	3,642	4,573		モンタナ	(D)	20,234
	モンタナ 1/	1,214	(未詳)		ノースダコタ	7,446	4,047
	ネブラスカ	26,304	19,991		テキサス 1/	-	(未詳)
	ノースダコタ	129,499	152,566		ワシントン	28,328	14,164
	ワシントン	3,399	(D)		その他の州 2/	29,259	-
ワイオミング	9,308	6,070	米国全体		90,123	50,586	
米国全体	194,451	204,123	カリフォルニア		6,111	5,868	
ライトレッド キドニー	コロラド	2,064	2,266	大粒ヒヨコマメ 4/ 5/	アイダホ	29,137	24,281
	アイダホ	405	931		モンタナ	(D)	86,937
	ミシガン	2,469	2,833		ノースダコタ	38,850	25,305
	ミネソタ	5,868	7,932		ワシントン	48,562	38,445
	ネブラスカ	4,087	4,775		その他の州 2/	135,084	-
	米国全体	15,499	20,072		米国全体	257,744	175,836
ダークレッド キドニー	アイダホ	1,214	1,497	ヒヨコマメ全品種 4/	カリフォルニア	6,111	5,868
	ミシガン	1,093	1,214		アイダホ	54,228	36,422
	ミネソタ	22,136	25,981		モンタナ	157,827	101,171
	ノースダコタ	607	1,862		ネブラスカ 1/	5,059	(未詳)
	ワシントン	769	405		ノースダコタ	46,296	30,351
ピンク	米国全体	26,628	31,242	ワシントン	76,890	52,609	
	アイダホ	3,035	2,995	米国全体	347,868	226,422	
	ノースダコタ	2,792	3,399	カリフォルニア	1,538	1,740	
スモールレッド	米国全体	8,053	8,498	その他の品種	コロラド	1,133	850
	コロラド	364	(D)		ミシガン	2,104	2,428
	アイダホ	1,335	2,428		ワシントン	769	647
	ミシガン	5,382	4,452		その他の州 2/	5,059	10,198
	ノースダコタ	3,642	4,735		米国全体	10,603	15,864
	米国全体	13,355	13,557	乾燥インゲンマメ 全品種	米国全体	842,151	537,625

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

(未詳) データが入手できていない。

1/2019年以降は推定が行われていない。

2/上記の理由で公表しないデータを含む。

3/小粒ヒヨコマメは、64分の20インチより小さいヒヨコマメ。

4/現行年の推定は、前回の予測から行われている。

5/大粒ヒヨコマメは、64分の20インチより大きなヒヨコマメ。

生産量: 米国農務省(USDA)、農業統計委員会、農業統計局(NASS)から、2019年8月12日付で公表。

米国の乾燥インゲンマメ州別及び銘柄別作付面積: 2018年及び2019年8月1日現在の推定値。

[園芸種子用に栽培されるインゲンマメを除く。2019年以降はヒヨコマメを除く。]

の時点での予測に比べて33.6kg/haの低下であるが、2018年度に比べて32.5kg/haの増加となっている。2019年度以降は、ヒヨコマメは推定値に含まれない。

カナダ：2019年9月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省（AAFC）の2018/19作物年度の生産見通し報告書（2018/19作物年度は全作物について終了している）及び2019/20作物年度の見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2018/19作物年度のカナダの輸出量は、バングラデシュへの輸出量が過去最高記録に達したことから2017/18作物年度に比べて増加して325万tとなった。バングラデシュへの輸出量の増加は、中国及び米国への輸出量が減少したことで部分的に埋め合わせられた。国内利用量は前年度に比べて減少した。乾燥エンドウの平均価格は、輸出量が増加したことで270ドル/tとなり、2018/19作物年度の期末在庫量は前年度に比べて減少した。黄色乾燥エンドウの作物年度平均価格は前年度に比べて低下した

が、緑色乾燥エンドウ及び飼料用エンドウの価格は2017/18作物年度に比べて上昇した。

2019/20作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、収穫面積の増加及び単収の上昇により、2018/19作物年度に比べて30%増加して470万tとなる見込みであり、これは過去第二位の記録である。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の51%、アルバータ州が44%をそれぞれ占めており、マニトバ州が3%を占め、残りはブリティッシュコロンビア州及びカナダ東部で生産されている。ただし、期初在庫量が前年度に比べて少なかったことから、総供給量の増加は18%に留まるものと予測されている。輸出量は増加して340万tとなる見込みであり、中国、米国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出市場の上位を占めている。期末在庫量もまた増加するものと見込まれている。世界的な供給量が増加しており、カナダの期末在庫量が増加しているため、平均価格は2018/19作物年度をわずかに下回る値となる見込みである。

米国の2019/20作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて26%増加して44万5,170haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。収穫を断念する面積の割合が低下し、単収が向上していることから、米国の乾燥エンドウ生産量は、米

国農務省の予測によれば、大幅に増加して100万tとなる見込みである。米国産乾燥エンドウの主な輸出市場（大部分が緑色乾燥エンドウである）は、カナダ、フィリピン及びインドであった。

レンズマメ

2018/19作物年度のレンズマメ輸出量は2017/18作物年度に比べて32%増加して200万tを上回った。この総輸出量のうち130万tが赤色レンズマメであり、70万tが緑色レンズマメであった。主要な輸出市場はインド、アラブ首長国連邦、バングラデシュ及びトルコである。国内総利用量は前年度に比べて減少して30万tとなった。期末在庫量は減少して70万tを下回った。需要が高まったにも関わらず、カナダのレンズマメ平均価格は2017/18作物年度に比べて大きく低下した。1等級緑色レンズマメの価格は1等級赤色レンズマメの価格を80ドル/t上回り、記録的な価格差を維持している。

2019/20作物年度のレンズマメ生産量は、単収の増加により20%増加して250万tとなる見込みである。作付面積は2018/19作物年度に比べて変わらないが単収が平年並みを上回る見込みであり、その大部分が赤色レンズマメの作付けが増えたことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ生産量の91%を占め、アルバータ州が9%を占めている。生産量が増加したにも関わらず、期初在庫量が減少したことから、総供給量の増加はわずかなものとなる見込みである。輸出量は減少

して190万tとなる見込みである。期末在庫量はわずかに増加して70万tとなる見込みである。期末在庫量が増加する見込みであり、世界的に供給が増加するとの思惑があるものの、全等級のレンズマメの平均価格は2018/19作物年度と同様となる見込みである。

米国の2019/20作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度に比べて38%減少して20万2,350haを下回る見込みであるが、これはモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積が減少したことによるものである。単収が平年並みを上回り、収穫を断念する面積の割合が平年並みを下回る見込みであるにも関わらず、米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて大きく減少して30万tとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きカナダ、インド及びEU諸国であり、特にスペインへの輸出が顕著となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2018/19作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、2017/18作物年度に比べてやや減少する見込みである。EU諸国及び米国はカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場として第一位及び第二位を占めており、これより少量がアンゴラ、日本及びメキシコへ輸出されている。為替レートが有利であることが、2018/19作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ価格が維持されている要因と

なっている。

2019/20作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は増加して36万tとなる見込みであり、これは主にマニトバ州で作付面積が増加したことによるものである。州別に見ると、マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量の43%を占めており、オンタリオ州が33%、アルバータ州が20%を占め、残りをケベック州及び沿海諸州が占めている。生産量及び期初在庫量が増加したことから、総供給量は増加する見込みである。輸出量は前年度に比べて変わらない見込みである。その結果、期末在庫量が増加する見込みである。カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、北米全体での供給量が増加する見込みであることから、低下するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、9%増加して130万エーカー（52万6,110ha）となる見込みであるが、これは主としてミネソタ州及びミシガン州で作付面積が増加したことによるものである。2019/20作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、2018/19作物年度に比べてわずかに減少して110万tとなる見込みである。ブラックビーンを生産量の増加分が、ホワイトビーンを生産量の減少によって相殺された形となっている。

ヒヨコマメ

2018/19作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は前年度に比べて増加して14万

7,000t近い値となった。この増加の背景には、パキスタンへの輸出量が過去最高記録にまで増加したことがある。供給量が増加したことで、輸出量が増加したにも関わらず、期末在庫量は前年度に比べて大幅に増加した。平均価格は大幅に低下したが、これはヒヨコマメ全銘柄について世界的に供給量が大幅に増加したことによるものである。

2019/20作物年度のカナダのヒヨコマメ生産量は、大幅に減少して26万3,000tとなる見込みであるが、これは作付面積の減少と単収の低下によるものである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の87%を占め、アルバータ州が13%を占めている。総供給量は、期初在庫量の多さが重荷となり、増加する見込みである。輸出量は2018/19作物年度に比べて増加が見込まれており、期末在庫量はわずかに増加する見込みである。世界的にヒヨコマメの供給量の大幅な増加が予測されていることから、平均価格は低下する見込みである。

2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、大幅に減少して18万2,115haとなる見込みである。単収が増加し、収穫を断念する面積の割合が平年並みに比べて低かったにも関わらず、2019/20作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて大幅に減少して33万tとなる見込みである。米国産ヒヨコマメの主要な輸出先はインド、EU諸国及びカナダで

表4 カナダの豆類作付面積・収穫量・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]	2017-2018	2018-2019[f]	2019-2020[f]
作付面積(1,000ha)	1,656	1,463	1,753	1,783	1,525	1,530	135	143	147	68	179	159
収穫面積(1,000ha)	1,642	1,431	1,722	1,774	1,499	1,501	132	137	142	68	176	155
単収(t/ha)	2.5	2.5	2.71	1.44	1.4	1.68	2.45	2.49	2.51	1.49	1.77	1.7
生産量(1,000t)	4,112	3,581	4,673	2,559	2,092	2,520	322	341	356	102	311	263
輸入量(1,000t) [b]	12	65	15	35	35	20	86	97	85	48	52	18
総供給量(1,000t)	4,424	4,294	5,076	2,908	3,000	3,194	409	463	521	151	377	381
輸出量(1,000t) (b)	3,085	3,250	3,400	1,538	2,032	1,900	354	351	350	116	147	150
国内総利用量(1,000t) (c)	691	656	1,076	497	314	594	30	33	36	21	129	126
期末在庫量(1,000t)	648	388	600	873	654	700	25	80	135	13	100	105
在庫量/利用量(%)	17	10	13	43	28	28	7	21	35	10	36	38
平均価格(ドル/t) (d)	265	270	245-275	475	390	375-405	760	815	770-800	950	480	425-455

[a] 作物年度(8月から7月)

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工用原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。ただし、2019/20作物年度及び2018/19作物年度以前の年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、カナダ統計局の推定。2018/19作物年度以前の年度の輸入量、輸出量、種子用及び期末在庫量は、カナダ統計局の推定。

資料: カナダ統計局(STC)及びカナダ農業食料省(AAFC)

ある。

オーストラリア：2019年9月10日公表 ABARES Australian crop report

概観

2019/20作物年度のオーストラリアの冬作の生産見通しは、一部の地域、特にニューサウスウェールズ州及びクィーンズランド州で生育条件が良くなかったことから、冬季の間に引き下げられた。

生産見通しは各州によりかなりの差異がある。ヴィクトリア州では冬季を通じて生育条件がおおむね良いであったことから、

春季の初めの時点で、大部分の作物の生産見通しが良いから非常に良いとなっている。西オーストラリア州では、生育が停滞していたが、冬季に時宜を得た降雨が得られたことから、大部分の作物について単収の見通しが平年並みに近い値まで上昇した。南オーストラリア州の生産見通しは、地域によりばらつきがあるが、南部及び中央部から北部にかけての大部分の主要な生産地域では、冬季に十分な降水量が得られており、春季の初めの時点で適度な生育条件が整っていると考えられる。しかし、南オーストラリア州の北部の生産地域の大部分では、生産見通しが平年並みを下回っている。ニューサウスウェールズ州及びク

イーンズランド州では、大部分の生産地域で生育条件に恵まれず、生産見通しは平年並みを大幅に下回っている。

例年の通り、最終的な生産量を左右する重要な要素は、春季の初めに十分な降水量が得られるかどうかである。オーストラリア気象庁が2019年8月29日に公表した最新の気象予測によれば、9月の降水量は西オーストラリア州では平年並みを上回り、その他の生産地域では平年並みを下回る見込みである。10月の降水量は、大部分の生産地域で平年並みを下回る見込みである。

2019/20作物年度の冬作物総生産量は、11%増加して3,390万tとなるものと予測されているが、この値は6月に公表されたABARESによる予測を7%下方修正したものである。この生産量の見通しは、2018/19作物年度までの10年間の平均を

16%前後下回っている。

コムギの生産量は10%増加して1,910万t前後となる見込みであり、この値は2018/19作物年度までの10年間の平均を22%下回っている。オオムギの生産量は14%増加して950万t前後となる見込みであり、この値は2018/19作物年度までの10年間の平均を6%上回っている。ナタネの生産量は6%増加して230万t前後となる見込みであり、この値は2018/19作物年度までの10年間の平均を29%下回っている。

2019/20作物年度の冬作物の総作付面積は、6%増加して1,910万ha前後となる見込みである。これは、栽培面積のかなりの部分が2018/19作物年度に穀物生産から干し草生産に振り向けられたことを反映している。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名			2016-17	2017-18	2018-19 s	2019-20 f
ヒヨコマメ	作付面積	1,000 ha	1,069	1,075.136	303	276
	生産量	1,000t	2,004	998.231	282	284
ソラマメ	作付面積	1,000 ha	232.732	313.051	178.354	194
	生産量	1,000t	483.578	415.591	216.912	300.5
エンドウマメ	作付面積	1,000 ha	230.17	291.489	178.9	220
	生産量	1,000t	415.186	317.209	152.175	254.5
レンズマメ	作付面積	1,000 ha	275.648	418.495	303.319	268.92
	生産量	1,000t	680.482	542.784	323.117	343.018
ルーピン	作付面積	1,000 ha	514.596	612.014	500.259	499.24
	生産量	1,000t	1,031.425	714.254	693.016	558.279

f: ABARES による予測。s: ABARES による推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるのかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表6 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クィーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2017-18	450	407	77	78	507	467	34	38	7	8	0	0
2018-19 s	50	35	20	20	200	190	25	25	8	12	0	0
2019-20 f	25	25	55	65	170	170	20	17	6	7	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	317	401	31	36	335	476	22	23	5	7	0	0
フィールドピー												
2017-18	75	46	84	91	0	0	102	137	31	42	0	0
2018-19 s	39	29	50	35	0	0	70	50	20	38	0	0
2019-20 f	35	39	55	56	0	0	100	120	30	40	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	53	60	58	62	0	0	99	114	26	39	0	0
レンズマメ												
2017-18	2	1	210	261	0	0	198	274	8	6	0	0
2018-19 s	7	5	125	105	0	0	160	200	11	13	0	0
2019-20 f	5	5	110	120	0	0	140	200	14	18	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	3	4	128	137	0	0	147	249	4	4	0	0
ルーピン												
2017-18	95	46	49	52	0	0	66	82	402	532	0	1
2018-19 s	50	38	30	20	0	0	40	35	380	600	0	1
2019-20 f	70	68	34	35	0	0	45	55	350	400	0	0
2018/19作物年度までの5年間の平均	69	65	38	38	0	0	61	69	352	555	0	0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名	2012-13	2013-14	2014-15	2015-16	2016-17	2017-18
	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)	(1,000t)
生産量						
ルーピン	459	626	549	652	1,031	714
フィールドピー	320	342	290	205	415	317
ヒヨコマメ	813	629	555	875	2,004	998
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	290	286	306	398	637	258
フィールドピー	145	175	124	72	148	189
ヒヨコマメ	1.0	0.2	1.0	1.0	1.0	1.0
輸出品						
ルーピン	169	340	243	254	395	456
フィールドピー	177	169	168	134	268	130
ヒヨコマメ	853	629	663	1145.1	2293.4	724

a：生産量に輸入量を加えた値から、輸入量を引き、さらに在庫量にあきらかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。豆類の市場年度は11月から10月までである。市場年度に基づく輸出品のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出品の数値と一致しない場合がある。ABSの農業データ収集方針の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の規模の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、2015/16年度以降は推定生産額40,000ドル以上の規模のEVAOによる生産量となっている。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表8 豆類価格の推移 (豪ドル/t)

作物名	2017	2018	2018	2018	2018	2019	2019
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
国内価格：ルーピン (クィナナ調べ)	286	292	323	330	363	374	388
国内価格：ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	763	598	645	736	789	802	694
国内価格：フィールドピー (メルボルン調べ)	298	305	378	429	516	620	542
輸出品：ヒヨコマメ b	957	821	737	764	835	896	831
輸出品：フィールドピー b	389	400	425	494	546	683	689

a：単位重量当たりの輸出品価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出品価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、CMEグループ、Farm Weekly、国際穀物会議(International Grains Council)、The Land、The Weekly Times、米国農務省